

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 3 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	大谷ミア

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
屋久島、日本
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ヤクシマザルの行動と食性の調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 5 月 19 日 ~ 平成 26 年 5 月 25 日 (6 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
野生部動物研究センター 屋久島観察所
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>5月20日から5月23日にかけて、屋久島の西部林道でヤクザルの行動観察と糞の採集によりその食性の調査を行った。今年は例年に比べヤマモモなどのヤクザルが主に食べる植物が不作であるためなかなかサルが見つからないかもしれないと聞いていた。</p> <p>初日の5月20日には雨が降り、午前から西部林道沿いを往復したが、サルは見つからなかった。車の方に戻ろうとしたところサルが見つかったとの情報が入ったので班のみんなが追跡を行った。雨がひどくなり1時間経った程で追跡は中止となったが、練習として採集したサルの糞を長田ステーションに持ち帰り、洗って乾燥させた。</p> <p>2日目以降は天気もよく、サルを1時間以上追跡することができた。山の中に入るA班と道路沿いを探すB班とに分かれた。暖かくなってきた昼過ぎころにサルはよく道路に現れるようだった(滞在中2回しか見ることができなかった)。道路上のサルはグルーミングをしたり、道路脇のまだ青いヤマモモを食べたりしていた。私はこの日程中ずっとB班であったが、AとBの2班に分かれたものの、どちらの班も同程度山に入った。サルが例年より道路上に見かけられないからだと言うことだった。1日目とは違い、個体を識別した上での糞採集ができたので、ホストゲノム解析用・食性の解析用のサンプルと、糞そのものの回収をすることができた。糞そのものは1日目同様に長田ステーションで洗い、乾燥させた。</p> <p>最終日の23日には午前で追跡を切り上げ、行動データの解析や洗った糞から得られた植物、昆虫などの同定を行った。夕方には屋久島で行われた講義に出席した。その間招聘者の方々はウミガメの産卵を観察していたので、少し不公平に感じた。</p> <p>屋久島のサルは、幸島と違って毛が長かった。また鳴き声も幸島のサルよりギャーギャーといった感じで、異なっていた。2つの場所で調査をすることができ、これらのサルを比較できたのでよかった。ただ屋久島まで行ったのに屋久杉を1本も見ることができなかったのは残念である。次回屋久島に行く機会があれば是非とも西部林道以外の場所も訪れてみたいと思う。</p> <p>また22日の夜には、コウモリの研究をされているDavid Hillさんの引率のもと、彼の調査地を案内していただいた。我々が参加した日は運良く複数のコウモリを直接目にすることが出来た。普段コウモリを間近で見る機会などないので、とても興味深かった。さらに超音波を拾うことの出来る機械(バットディテクター)を用いて、コウモリの探知を試みた。1度だけコウモリの声聞くことが出来た。</p>
6. その他 (特記事項など)
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先: report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

写真1

糞サンプリングのデモンストレーション。



写真2

西部林道での散策。
サルが見つからない間も道沿いの植生について沢山教えていただいた。



写真3

道路でグルーミングを行うサルたち。

